

事業の実施状況等について
【東淀川区】 (受託者等:-)

1 地域活動協議会の現在の状況についての分析(年度当初・期末)(受託者が記入)

項目		
会 の 百 律 的 取 組 的 運 営 に 向 け た 地 域 活 動 協 議	(1)「Ⅰ 地域課題への取組」についての分析	<ul style="list-style-type: none"> ●全ての地域においてステージ1はクリアできている。 ●多くの地活協において自主財源の確保よりも担い手の減少が課題となっている。(ヒト>カネ>モノ)
	(2)「Ⅱ つながりの拡充」についての分析	<ul style="list-style-type: none"> ●全ての地域においてステージ1はクリアできている。 ●HP、SNSを活用したイベントの告知を拡げていく必要がある。 ●地活協内部の連携、地活協外部との連携、公共人材の活用が多くの地活協において共通して弱い。
	(3)「Ⅲ 組織運営」についての分析	<ul style="list-style-type: none"> ●ほとんどの地域において議決機関の運営が適正に行われ、広報紙も全ての地域が発行している。一部、会長の交代により事務局機能の低下がみられる。 ●多くの地活協において、議事録の公表(広報紙、HP、SNSの活用)、SNSを活用した双方向の情報発信、広報媒体を用いた広告(収益)事業が取り組めていない。

2 支援の内容及び効果等(1) 上段は受託者等が記入、下段は区が記入)

- (※) Ⅰ・地域課題やニーズに対応した活動の実施 ・法人格の取得
Ⅱ・これまで地域活動に関わりの薄かった住民の参加の促進 ・地域活動協議会を構成する活動主体同士の連携・協働(担い手の拡大を含む)【地域活動協議会内部】
・地域活動協議会を構成する活動主体同士の連携・協働【外部との連携】 ・Ⅱ 地域公共人材の活用」
Ⅲ・議決機関(総会・運営委員会等)の適正な運営 ・会計事務の適正な執行 ・多様な媒体による広報活動」

項目(※)	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	事業者選定時における企画提案(事業計画書)の概要	(上段)支援状況(実績) (下段)支援状況に対する区の意見	(上段)左記の支援効果 (下段)支援効果に対する区の意見	(上段)左記の状況及び効果を踏まえた課題分析と今後の改善策等 (下段)課題分析と今後の改善策等に対する区の意見
百	○			<p>①取り組みやすい自主財源の確保の手法や、CB/SBの手法を例示し”できない”イメージを払拭しながら取り組みを進めていくことと合わせて、大阪市市民活動総合ポータルサイトの活用をはじめ、様々な財団等の助成金を紹介していく。</p> <p>②平成30年度各地域活動協議会事業計画の一覧表と平成27年国勢調査から見える地域の特徴を網羅したレポートを作成し、地域カルテの作成支援を行う。</p>	<p>①コミュニティ回収の進め方について、他区の事例を収集した。 3地域がコミュニティ回収に興味を持っており、説明会の日程を調整中。 11月の地域活動協議会連絡会議においてコミュニティ回収の取組やすさについて再度周知した。あわせて、区内3地域の取り組みが 大阪市市民活動総合ポータルサイトに掲載されたことを共有した。</p> <p>②平成30年度各地域活動協議会事業計画の一覧表と平成27年国勢調査から見える地域の特徴を網羅したレポートを作成した。 11月の地域活動協議会連絡会議において、地域カルテ作成支援について周知した。その後、3地域の代表に対し、区役所で作成した地域カルテを見せ、今後地域活動協議会で地域カルテを作成、活用する打ち合わせを行っている。</p>	<p>①豊里南地域が1月よりコミュニティ回収を実施。 大阪市市民活動総合ポータルサイトの掲載については、あまりメリットを感じておらず、積極的ではなかった。</p> <p>②地域カルテを用いた地域活動カレンダーや防災活動に特化した取組に活かさないか地域の取り組みについて話せる機会となった。</p>	<p>①については、想定した以上に自主財源の確保に意欲的な反応はなかった。聞き取りでは財源よりも担い手の確保のほうが直面する課題で、かつ解決が難しいと感じているようである。</p> <p>②現在、3地域に地域カルテの活用を説明しているが、まだすべての地域に話をしていないので、今後地域カルテの作成・活用支援を行いたい。</p>
				<p>①コミュニティ回収のほか、大阪市市民活動総合ポータルサイトの活用についても認識を拡げていただきたい。</p> <p>②作成された資料は非常に重要かつ有用である。次年度も継続的に地域活動協議会の地域カルテ作成支援として取り組んでほしい。</p>	<p>①コミュニティ回収の取組について、当初誤解の多かった資源集団回収との住み分けが理解され始め、徐々に前向きな地域が増えてきた。</p> <p>②地域が主体的に地域課題への取組を行うために有効であるため、継続的に取り組みを進めてほしい。</p>	<p>①②ともに、身近な他地域の取組を共有し、ニーズに応じた支援をアウトリーチして取り組んでいただきたい。</p>	

事業の実施状況及び効果	○	○	<p>①地域と大学、企業等の様々な主体者との繋がり場を設け、多様な協働の推進、ネットワークの充実を図る。</p> <p>②地域活動協議会の行う取り組みについて、様々な広報媒体の活用を提案し、地域内外の情報発信力を高める。</p> <p>③地域の有志が主体となる魅力発見プロジェクトを通じて、新たな人材と区の魅力を発掘・発信する。</p> <p>④東淀川区BCP学びの場を開催することで、東淀川区内の企業のBCPの策定と地域連携の推進を図る。</p> <p>⑤地域公共人材の活用をすすめる。</p> <p>⑥繋がりづくりのため、区内地活協、企業、NPOへの訪問、ヒアリングを実施する。</p>	<p>①大学主催のイベントや授業に区役所として参画する形で地域と大学・企業が繋がる場づくりを行うことと、地域づくりアドバイザーが企画した企業・教育機関・NPO等の繋がり場の2つの形で取組を行った。</p> <p>大桐地域活動協議会拠点ウェルファの食事サービスにおいて人間科学部中川教授によるタッピングタッチ体験会を2月13日実施。</p> <p>②ホームページ作成サポート(小松地域)、・フェイスブック作成サポート(豊新地域) 広報学習会として「スマホで撮るおしゃれ写真」「ここまで出来る!!Facebook活用術」、実施</p> <p>③魅力発見プロジェクトの会議及びイベントのコーディネーター</p> <p>④東淀川区BCP学びの場の開催及び企業・事業所ヒアリング</p> <p>⑤地域公共人材を活用したロゴマークづくり(豊新地域)</p> <p>⑥その他区内企業、NPOへの訪問、ヒアリングを実施(47件)</p>	<p>①大学主催のイベントに参画することで、区役所として新たな専門分野の先生や企業との繋がりが生まれた。</p> <p>中川教授のタッピングタッチは参加者に好評で、会長からは町会等でも体験会を開催してほしいとの依頼をうける。また、今回のケースをきっかけに今後防災チームとのコラボの話も進行中。</p> <p>②広報媒体としてHPやSNSの活用方法について、細かなニーズの把握も行った。</p> <p>③2年目となる取組で、区内の様々な機関との協働が実現してきている。</p> <p>④これまであまり参加されていなかった福祉施設から3団体参加された。また、大阪府商工労働部中小企業支援室との連携が実現し、大阪府ホームページに東淀川区役所のBCP策定支援の取組みを取り上げていただいた。(相互リンク済)</p> <p>⑤ロゴマーク作りについては、地域住民や子ども達からアイデアを募集する予定で住民の参画に繋がっている。</p> <p>⑥多様な協働の推進、ネットワークの充実に向けた取組の見通しがたった。</p>	<p>①大学と行政が連携することで、それぞれの知見を活かした場づくりのなかで地域活動に役立つ情報を発信するなど、連携できる場をひろげていきたい。</p> <p>参加者には好評であるが、継続的にサービスを提供するためには、コーディネーターの役割が重要となる。各関係者のモチベーションをいかにキープするかが肝となる。今後、意識喚起を継続する仕組み化が改善策となる。</p> <p>②⑤個別支援で拾えた細かなニーズを勉強会等の場で多くの方に伝えていきたい。</p> <p>また、「広報媒体の多様化」と「地域活動の広がり」は、関連性があり、例えば、今年度新たにフェイスブックページを立ち上げた豊新地域は、役員も若く、様々な地域資源との協力を意識して、事業を行っている。また、区内2地域では、フェイスブックのいいねが100を超えている。地域ビジョン⇒事業計画⇒広報活動は同一線上にあるが、それを堅苦しくなく、面白く学べる学習会を、地活協の現状を考慮して開催していく。</p> <p>1月に実施した「スマホで撮るおしゃれ写真」「ここまで出来る!!Facebook活用術」では、地域の広報担当者を中心にお集まりいただき、ICTを取り入れた広報活動について伝えると共に、広報活動の現状と、ニーズを把握することができた。</p> <p>豊新地域は、公共人材派遣を活かし、地域のロゴマークを公募。50を超える案が集まり、ロゴマークを決定した。2月に開催するウインターフェスティバルにて発表予定。</p> <p>③実績も重ねており、これからも新たな人材が集まる場としてコーディネートしていきたい。</p> <p>④福祉施設の参加により、福祉避難所開設に繋がっていききたい。また、災害に対する意識が高まっている今、地域と企業とが普段から協力しあえる場として発展させていきたい。</p> <p>⑥地域協働担当職員と情報共有し、地活協や地域活動団体と区内事業所との協働・マッチングを今後進めていく。</p>
			<p>情報発信と場づくりが、繋がり場の拡充のために必要な支援であり、引き続きの取組をお願いしたい。</p>	<p>区役所として地活協を構成する既存の団体以外との繋がりが増えていることを実感できる。様々な主体者がいかに地活協と連携できるかが、今後の課題。また、地域公共人材のコーディネーターと地域との繋ぎにも貢献してくれているので、他地域にも拡げていただきたい。</p>	<p>これまで地域活動の中心となってきた地縁組織と、経験や考え方は違いますが同じ目的をもっている方たちとの連携は短いスパンで成果に繋げることが困難だと思われるが、今年度で見えてきた課題を意識して次年度の支援に臨んでいただきたい。</p>	
	○	○	<p>①広報担当者勉強会を開催し、SNSの注意すべき点や魅力的な紙面づくり等のスキル向上を図る。また、決算書だけでなく議決内容についても広報紙・電子媒体で発信し、民主的で透明性のある組織運営を行っていることを発信していく。</p>	<p>ホームページ作成サポート(小松地域) フェイスブック作成サポート(豊新地域)</p> <p>比較的多くの地活協が広報に力をいれられているものの、組織運営面の発信が弱いことが見られるので、今後も各地域の運営委員会等を活用して必要性を浸透していただきたい。</p>	<p>個別支援の関わりのなかで、活動の発信だけではなく、民主制と透明性を意識した組織運営を行っていることを発信することについての重要性が少しづつ理解されてきた。</p> <p>イベント等の活動の発信は力を入れている地域が増えてきたところであるが、組織運営面の発信が弱いことが多くの地活協の現状であることから、年度末の決算書・議事録の公表時期に個別支援も行っていたきたい。</p>	<p>議事録の公表は多くの地活協が実施できていない。決算期の運営委員会で公表される地域も増える見込みであるが、今後も予定している広報担当者勉強会等の様々な場面で粘り強く取組まれるよう支援を継続していく。</p> <p>また、広報担当者がトラブルに巻き込まれないように、個人情報の観点をはじめ、様々なスキルUPを図ることも地域活動の継続面から重要であり、勉強会でしっかりと伝えていきたい。</p> <p>予定されているとおりに進めていただきたい。</p>

3 支援内容及び効果等(2)(上段は受託者が記入、下段は区が記入)

支援	事業者選定時における企画提案(事業計画書)の概要	(上段)支援状況(実績) (下段)支援状況に対する区の意見	(上段)左記の支援効果 (下段)支援効果に対する区の意見	(上段)左記の状況及び効果を踏まえた課題分析と今後の改善策等 (下段)課題分析と今後の改善策等に対する区の意見
(1)自由提案による地域支援の実施状況 (企画提案書(事業計画書)等で受託者が提案したもの)				
(2-2)フォロー(バックアップ)体制等		地域毎に成熟度と必要な支援が異なるため、担当地域を設けずに、ニーズに応じた支援を行うことは有効である。	一律に地域分けしていないことから、成熟度に応じて必要な支援を行ってきたことが、成果としてあらわれてきたものと考えている。	地域と大学、企業との連携については、地域づくりアドバイザーの支援効果があらわれるのに一定の期間を要し、短期的に可視化することが困難なことから、地域づくりアドバイザーのモチベーション維持のためにも短期の目標設定が必要である。 また、これまで地域協働担当が大学や企業との間に構築してきた関係を活かし、地域協働担当だけでなく他の部署とも連携した取組を地域に拡げていくことが有効と考えられる。
		(3)区のマネジメントに対応した取組		

4 区の方針・戦略を踏まえた今年度の重点支援策(取組)の状況及び効果等(上段は受託者が記入、下段は区が記入)

支援策(取組)名称	事業者選定時における企画提案(事業計画書)の概要	(上段)支援状況(実績) (下段)支援状況に対する区の意見	(上段)左記の支援効果 (下段)支援効果に対する区の意見	(上段)左記の状況及び効果を踏まえた課題分析と今後の改善策等 (下段)課題分析と今後の改善策等に対する区の意見
自主財源確保の取組支援	取り組みやすい自主財源の確保の手法や、CB/SBの手法を例示し”できない”イメージを払拭しながら取り組みを進めていくことと合わせて、大阪市民活動総合ポータルサイトの活用をはじめ、様々な財団等の助成金を紹介していく。	コミュニティ回収の進め方について、他区の事例を収集し、普及促進の周知を行った。3地域がコミュニティ回収に興味を持っており、説明会の日程を調整中。11月の地域活動協議会連絡会議においてコミュニティ回収の取組やすさについて再度周知した。区内で2地域目となる豊里南地域が1月よりコミュニティ回収を実施。 コミュニティ回収のほか、大阪市民活動総合ポータルサイトの助成金活用についても認識を拡げていただきたい。	継続した周知と、区内でもコミュニティ回収の取組例が増えてくると、徐々に進むと思われる。 口コミによる取組の拡がりは有効であると認識しており、区内で先行的に取り組みされた事例を共有する場を設定していただきたい。	まずは興味を持っている3地域の支援をしっかりと行う必要があるが、自主財源確保の必要性を感じていない地域もあるため、意識改革も合わせて進めていきたい。 上記3地域の支援を行うとともに、自主財源の確保により活動(取組)の幅が拡がることを地域に浸透させていただきたい。
地域と大学、企業等の連携	①地域へは、大学が提供できるコンテンツ(プログラム)を告知し、大学へは、地域ニーズの分析を提供。両者が共に課題解決に向けて協働するスキームを企画提案する。 ②地域課題の解決を願う地域と、貢献活動に関心のある企業・学校機関・NPO・個人等が意見や情報の交換ができる場を設けることで、連携・協働が促される機会の場づくりを行う。	①区内大学主催の健康増進イベントのコーディネーションおよびコンテンツ制作のサポートを行いながら、区役所の保健師と区内医療法人よどまちステーションの参加のコーディネートをを行った。庁舎内のチラシ配架および地域への周知を行った。 また、同大学の授業「地域社会調査」では、東淀川区の企業、各種団体等を対象にリサーチを実施した。成果発表の場に参加し、先生と学生に具体的な地域活動の現状を共有することができた。 ②多様な協働の推進、ネットワークの充実を目指し、第一回東淀川みらいEXPO～東淀川“ええもん”博覧会～を開催。社会資源(東淀川区を事業・活動エリアとする多様な組織の独自性や魅力)を浮き彫りにするとともに、組織間の連携の拡充をコーディネートした。 次いで、第二回東淀川みらいEXPO「Ready for“ザ・防災”」を開催。防災をテーマに、「ユニバーサル」「テクノロジー」「カルチャー」の側面から学習会を実施。 大阪ハイテクノロジー専門学校には、日本語学科があり、中国からの留学生を受け入れ、その寮が西淡路にある。今年度起きた災害がきっかけとなり、西淡路地域とつながることとなった。	①同イベントには地域住民や連合振興町会長も参加され、住民の健康増進への関心が高まっていることについて認識を共有することができた。また、学生が地域活動に興味を持つ良い機会にもなったことから、地域と大学、企業との連携のきっかけとして一定の効果があつたと思われる。 ②第一回:ワークショップの結果、資源の要素144個、行動アイデア39個)が集まり、今後の具体的な活動計画案も誕生した。 ・「東淀川区民会館」にて、区内事業所が参加するイベント企画案検討 ・「お茶もりえん、喫茶室はら」へ「榊神戸屋」が、新規パン検討のためのヒアリングを実施。 ・「かみしんプラザ」、会場内ラックにて地域情報誌の設置、ワークショップスペースにて地域活動に関するワークショップ実施にむけて検討。 ・「下新庄地域、林氏(子育て支援ボランティア)」と「プラスワン防災」マッチング。 ・「榊ソレイユ(こどもの居場所vivaスタッフ)」と「ベルエベル専門学校」マッチング。 第二回:「あすわへく」、連絡会にて、防災ゲームの実施を提案 第一回出席:30名(企業商店など12名、学校3名、公益法人など8名、福祉施設4名、個人3名) 第二回出席:48名(地域7名、病院・施設11名、企業3名、NPO4名、学校関係13名、行政機関等5名、議員2名、個人3名) 大阪ハイテクノロジー専門学校の中国人留学生と西淡路地域との繋がりサポート ・いきいき放課後事業の見学 ・もちつき大会へのボランティア参加	①短いスパンでしか関わりが難しい学生と地域活動の主体者とが相互利益を得られるシチュエーションとしては、特定の課題について刺激しあう仕掛けが必要だと考えており、関係が築けてきた大学の先生と企画していきたい。 ②第一回では、企業やNPO、教育機関などをコアターゲットとして広報展開し、概ね予想通りの事業主体に参加いただいた。具体的な行動計画案が生まれたことも大きな成果であった。 第二回では、防災をテーマに、地域、病院・施設、学校関係など、地域に密着した組織からの参加が増えた。また、普段関わるのが少ない組織同士の交流を促すことができた。 中国人留学生は、地域に関わることで「学ぶ日本語の定着」「日本文化の体験」というメリットがあり、西淡路地域には、新たな担い手の確保というメリットがある。今後活動の幅を広げられるようにサポートしていく。
地域カルテ作成支援	平成30年度各地域活動協議会事業計画の一覧表と平成27年国勢調査から見える地域の特徴を網羅したレポートを作成し、地域カルテの作成支援を行う。	地域の状況を定量的・相対的に共有するため、平成30年度各地域活動協議会事業計画の一覧表と平成27年国勢調査から見える地域の特徴や、年齢別人口の推移をまとめたレポートを作成した。そのレポートを地域の代表者(東淡路・柴島、大桐、いたかの地域)と共有し、どのように活用していくか話し合い、地域活動のスケジュールが一目でわかるカレンダーを作成しようということになり、現在、作成中である。 作成された資料は非常に重要かつ有用であるため、下半期に向けて地域活動協議会の地域カルテ作成支援として取り組んでほしい。	他の地域とも、このような取り組みを行うことで、これまでの取組とこれから必要な取組について、当事者として考えてもらう一歩となることが期待できる。 担い手の減少が課題としてあげられているが、一方で行事等の棚卸ができていないことが原因でもある。急速に環境が変化していくことを考慮し、これからの取組を考える機会として、地域カルテ作成支援を行っていただきたい。	地域カルテ作成の支援として、来年度も各地域活動協議会に接触していく。 非常に重要な取組であるものの、地域版保健福祉計画策定の関わりにおいても、各地域活動協議会の反応は様々であった。特に、区役所からの押し付け感やさらなる負担感を感じる地域や、現状以上の取組が困難だという地域については、しっかりと成熟度をみながら、職員と連携し接触を図っていただきたい。

<p>新たな人材と区の魅力発見</p>	<p>住民自らが主体となって東淀川区の魅力を発見・発信することを狙いとした東淀川区魅力発見プロジェクトを立ち上げた。埋もれていた魅力を見つけ、発信する活動のなかで、新たな連携が生まれることや、プロジェクトメンバー自身が地域のにぎわいづくりの人材として活躍されることが期待される。 住んでいる地域の魅力を5つ以上挙げられた者の75%がまちをよくするために活動したいと答えているアンケート調査もある。</p>	<p>・打ち合わせ会議(計11回開催) ・「東淀川で発見ものづくり現場拝見ツアー」実施(5/12) 参加者数:14名 アンケート:東淀川区が魅力的なまちだと感じた割合100% ・「テーブルまち歩き～小松・瑞光・昭和の賑わい」を開催(8/26) 参加者数:15名 ・アンケート:東淀川区が魅力的なまちだと感じた割合100% ・「まち歩きガイドツアー③『小さな駅が見続けたまちの歩みをたどる』(11/17) 参加者数:9名 アンケート:東淀川区への好感度や関心が高まった割合:89% ・「100年前の東淀川の記憶～小林康夫さん色紙絵展」(2/10～12) アンケート回答数:118名、アンケートが現在集計中。</p>	<p>2年目となる取組で、区内の様々な機関との協働が実現してきている。 区内の企業や商店街会長と連携した取組が生まれた。阪急各駅の掲示板にポスターを貼ったことで、区外からの参加者が増えた。 イベントの様子が大阪日日新聞に掲載された。 イベントには地域活動協議会会長や連合振興町会長も参加され、地域での取組や、個別地域での開催に繋がると面白いという意見も頂戴した。特に、「100年前の東淀川の記憶～小林康夫さん色紙絵展」については、豊里南地域からオファーを受け、地域の会館でプロジェクトと連携しての開催となった。</p>	<p>・東淀川区魅力発見プロジェクトの各事業はこれまで区内の企業、大学、図書館、寺社、商店(街)などと協働して事業を進めてきたが、地域活動協議会など地域団体との協働の可能性も具体的に見えてきた。実績も重ねており、これからも新たな人材が集まる場としてコーディネートしていきたい。 ・魅力発見プロジェクトの認知度向上を図るためポスター作成を支援する。 ・2,3年の間に財政面と事務局機能も自立したプロジェクトをめざしており、事務を行う人材や組織のリーダーになる人材の育成にも着手していく。</p>
<p>地域活動協議会の広報力向上</p>	<p>充実した広報を行うことでもたらされるメリットを伝える。 広報担当者向けの学習会を開催することで、広報活動の重要性と魅力的な広報紙の作り方を学び、より効果的な広報活動ができるきっかけをつくり、地域活動協議会全体の情報発信力の向上や認知度をあげていくことをめざす。</p>	<p>上半期は、個別地域支援を中心に実施した。 ・ホームページ作成サポート(小松地域) 現在広報担当者の事情により中断している。 ・フェイスブック作成サポート(豊新地域) ・公共人材によるロゴマークづくり(豊新地域) 下半期は、「スマホで撮るおしゃれ写真」「ここまで出来る!!Facebook活用術」の2講座を開催し、ICTを用いた広報の可能性について伝えた。</p> <p>丁寧な個別支援は非常に重要だと考えている。SNSによる双方向の情報発信ができることのメリットを引き続き伝えていただき、残り6地域への取組の支援についてもお願いしたい。</p>	<p>・豊新地域フェイスブックは、作成の後、「ホームページとの連動」や「情報拡散のヒント」など、情報の拡散に寄与している。 地域公共人材を活用し、単にロゴマークを作るだけではなく、地域住民や子ども達からアイデアを募集する取組として住民が参画できる取組に発展している。2月開催のウインターフェスティバルにて、ロゴマークを発表し、今後様々な広報媒体に利用していく。</p> <p>当区では初めてとなる地域公共人材の派遣で、非常に楽しく有意義に進められたと地域からも聞いている。取組まれた内容の横展開についてもお願いしたい。</p>	<p>「広報媒体の多様化」と「地域活動の広がり」は、関連性がある。 例えば、今年度新たにフェイスブックページを立ち上げた豊新地域は、役員も若く、様々な地域資源との協力を意識して、事業を行っている。また、区内2地域では、フェイスブックのいいねが100を超えている。 地域ビジョン⇒事業計画⇒広報活動は同一線上にあるが、それを堅苦しくなく、面白く学べる学習会を、地活協の広報担当者をメインターゲットに開催していく。</p> <p>学習会の開催によって生まれるであろう個別地域のニーズへ支援をお願いしたい。 また、電子媒体による発信は、行事の告知や、民主的で透明性のある組織運営であることの認知向上に有効であることを地域活動協議会に粘り強く伝え、取組まれるよう支援していただきたい。</p>